

研究課題名：

ダニ媒介感染症対策に資する基礎的研究

研究の目的と方法：

北海道は、ダニ類に咬まれることによって起こる感染症(以下、「ダニ媒介感染症」)の全国有数の発生地です。ライム病・新興回帰熱の患者数は全国で最も多く、道内でのみ患者報告のあるダニ媒介脳炎では死亡例も発生しています。また、近年、発熱や筋肉痛などを主訴とするエボウイルス感染症やオズウイルス感染症も新たに発見されています。

このため北海道立衛生研究所では、ライム病、新興回帰熱、ダニ媒介脳炎及び重症熱性血小板減少症候群の行政検査を実施するとともに、これら4疾患を含めた各種ダニ媒介感染症に関する調査研究を行っています。

ダニ媒介感染症の対策には、感染症発生動向調査の一環として、①検査法の開発及び改良、②病態の解明、③道内の蔓延状況把握のため、実際の検体を使用した調査研究が不可欠です。

それらは、ダニ媒介感染症対策につながる重要な基礎データとなりますので、行政検査受検者の方々に検査用試料の残りを調査研究に活用させていただくことへの同意をお願いしております。

得られた研究の成果を報告書、学術雑誌、学会などへの発表に使用場合がありますが、お名前や生年月日など個人が特定できるような情報が公開されることは一切ありません。また、対象となる患者様への不利益や介入もありません。

北海道に住む皆様の安全・安心に寄与できるよう、感染症対策に取り組んでまいりますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

研究の対象者及び対象期間：

2014年度から2023年度の期間に保健所、医療機関、研究機関などを通じて北海道立衛生研究所にダニ媒介感染症の検査目的のために試料が搬入された方を対象といたします。以後、必要に応じて3年ごとに延長申請を行います。現在は北海道立衛生研究所倫理審査委員会において 2025年4月1日から2028年3月31日までの延長が認められています。

研究に利用する試料・情報：

ダニ媒介感染症の検査のために北海道立衛生研究所に提供された検体の残りを用います。個人の特定に繋がらない形で病原体情報、疫学情報、診療情報(発症日、試料採取日)等を解析に用います。

研究機関：

北海道立衛生研究所

試料・情報の管理について責任を有する者:

統括責任者: 感染症センター	感染症部	部長	山野 公明
試料の管理: 感染症部	ウイルスグループ	主幹	駒込 理佳
	医動物グループ	主査	後藤 明子
情報の管理: 感染症部	ウイルスグループ	主幹	駒込 理佳
	医動物グループ	主査	後藤 明子
	感染症疫学部	サーベイランスグループ	主査 山口 宏樹

利益相反について:

本調査研究に関連して、開示すべき利益相反状態にある企業等はありません。

お問い合わせ先:

北海道立衛生研究所
山野 公明
〒060-0819 北海道札幌市北区北 19 条西 12 丁目
TEL:011-747-2760 FAX:011-736-9476

<ライム病・新興回帰熱等のボレリア系疾患について>

北海道立衛生研究所
後藤 明子
〒060-0819 北海道札幌市北区北 19 条西 12 丁目
TEL:011-747-2768 FAX:011-736-9476

<ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群等のウイルス性疾患について>

北海道立衛生研究所
駒込 理佳
〒060-0819 北海道札幌市北区北 19 条西 12 丁目
TEL:011-747-2764 FAX:011-736-9476